

2010年 4 月 30日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人 アート多摩

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

みんなのかんたん芸術講座 ー縄文時代の土器芸術ー

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

障がいのある人たちも社会の一員として、生活を楽しみ、その人らしく生きることのできる社会の実現が求められている。そのためには、趣味や楽しみを得て、いろいろな事への興味関心を開くことが必要である。芸術はすべての人にとって趣味活動としてふさわしい分野であるが、とくに美術鑑賞や創作活動は直感と感性によるところから、障がいのある人には最も親しみやすい分野であると考えている。

このプロジェクトは、障がいのある人が美術に親しみ感性を豊かにすることによって、個人の主体的な活力を引き出し、その人らしい自立した社会生活を促すことを目的とする。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

みんなのかんたん芸術講座は、1～2時間の美術講座と2～3時間の創作教室をセットで行う。美術講座は、都内や近隣の美術館で開催されている展覧会や作品、あるいは話題となっている美術のトピックスなどについてスライドショーを中心に解説を行う。特に作品の生まれた時代の文化や人々の生活などを含めて解説することで、見るものと作品との関係にフォーカスし、わかりやすく解説する。創作教室は、美術講座で取り上げた作品の技法を応用して、参加者各人のオリジナル作品を制作する。美術講座と創作教室はいずれも専門の講師が指導する。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

今年度は開催場所(国分寺市)の地域の文化に関連するテーマにした。国分寺市内には、縄文遺跡が多く、市立の資料館にも縄文土器が展示されているが、考古学的な視点から解説され、その芸術性については余り話題にならない。講座の参加者は、地域に縄文遺跡があり、芸術性の高い土器が作られていたことを知り、「縄文」をより身近に感じられたようだ。

昨年の講座は土曜日に開催したので、今回は平日に開催してみたが、施設や作業所に通う人は休めないということで、思いのほか参加者が少なかった。今後は、個人ごとに参加を募るのではなく、施設や作業所として参加してもらえるよう働きかける。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

参加者は精神障がい者・身体障害者であり、知的な好奇心から、創作活動よりも講座に期待して参加したようだ。参加者に知的障がい者がいないことが事前に判っていたため、講師にその旨を伝え、より知的なレベルでの講座を依頼した。その内容は、縄文土器の芸術性、その芸術性から推察される縄文人のメンタリティーなど、考古学的視点とは異なる話で、大変興味深かった。創作にあたっては、作る事に没頭するより、「これはどうやって作ったか」など、知識としての質問が多かった。地域の歴史、共通の祖先としての縄文人への共感もあり、今後、「縄文」というテーマに絞って、国分寺市内で一般市民も含む継続的な講座を開催したいと感じた。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

○参考資料あり・特になし

みんなのかんたん芸術講座
—縄文時代の土器芸術—

開催日:2010年3月23日

場所:国分寺市福祉センター

参加者:11名 スタッフ:講師+4名

